

# 原作者が泣いた

## 言いたくて言えなかったセリフ

テレビ東京系「ドラマ24」枠で7月18日の深夜0時12分から放送の「アオイホノオ」のロケ撮影が、5月23日から6月26日にかけて江戸川大学のキャンパスで行われ、福田監督にインタビューすることができた。  
(取材: 大塚桜/志摩千尋 撮影: 文/勝俣遥子)

ドラマの舞台は80年代の大阪芸術大学。原作者の島本和彦先生が



主人公の「焰モユル」が豊かな才能にめざまれた仲間の中で漫画家を目指して行く。今は著名なクリエイター達が「何者でもなかった日々」の話である。

原作者の島本和彦先生がロケ現場に遊びに来た時、主人公の焰モユルが凧(こがらし)マスキに振られるシーンを撮影していた。

「アニメが上手な人ですよね?」と言われ、モユルは否定する。次に「漫画が上手な人だ」と言われ、「違いますよ、僕はアニメも漫画も上手な人ではないんですよ!」と走り去る。

島本先生はそのセリフを



上: ドラマの裏側を語る福田監督は熱い。中: カットの音がかり、撮影現場が一瞬で和やかに。下: 真剣にカメラを見ている福田監督。



聞いて涙をボロボロ流したという。

実はこのセリフは原作に存在しない。

それは「島本先生が学生時代にもプロになってから言えなかったセリフなんだと思う」と福田監督。

福田監督と島本先生は映画「逆境ナイン」からの付



き合いで、厚い信頼関係がある。だからこそ、原作にないセリフを加えることができたのだ。

人は、社会で同じ目標を目指しているライバルたちと戦っている。そこで、人より自分が劣ってしまった時、プライドが許さなかったりして、口に出せないようなことがある。

それをモユルは恥ずかしがることも無く、率直に言っている。

「そのセリフは制作者が言いたくても絶対に口に出

## 福田監督に聞いた 涙、涙のドラマ撮影 こぼれ話

算が少ないから、多くの機材が借りれないんですよ」  
そのため複数のカメラを使えず、1台のカメラで、アングルを変えながら何度も撮影しているのだと言う。

だから、台本1ページ分を撮るのも大しごと。なんと2、3時間もかかる。

だが、予算がないことを逆手に取る。それを楽しんでいる工夫するから、おもしろいものが作れるのだ。

「深夜ドラマの枠は予さないことだし、言えないこと。マスキを学ぶ皆さんにはたまらなく共感でき

## 撮影ロケ地は 江戸川大学! エキストラも 江戸川大学生

「アオイホノオ」の舞台は大阪だが、ドラマの一部を江戸川大学で撮影している。

江戸川大学には、ドラマの舞台に近い雰囲気があることが、その理由だ。

また、この大学にマスキコミュニケーション学科があることが関係しているという。

マスコミを学ぶ学生がいる大学での撮影なら本番中に静かにする...などの配慮をしてくれるだろうと考えたからだそうだ。

撮影に参加した江戸川大学の学生エキストラは、もちろん静かにテキパキ指示にしたがっていた。

